

ふれあい

2025

10

No.463

牛久愛和総合病院 広報誌



自己紹介

救急医療科 櫻井 浩政



皆さんはじめまして。掲載される頃には暑さも和らいでいますでしょうか。4月より赴任しております医師の櫻井浩政（さくらいひろまさ）と申します。当院では主に血管内治療科でIVRを勉強させていただきつつ、CTやMRIの読影なども行い、救急科として救急外来も時折お邪魔させていただいているという変わった立場です。出身は茨城県笠間市でして高校まで茨城県内で過ごし、そこから秋田大学医学部に進学、初期研修医から茨城に戻ってきて現在は筑波大学救急・集中治療科に所属しています。趣味はバスケット観戦（主にNBA）、読書で、最近の悩みは3歳になる娘の外遊びに体力面でついてい

くのがきついことです（幼児は無限の体力！）。現在は救急科専門医を取得し、その次の専門分野としてカテーテルでの治療・IVR（interventional radiology）を学ぶことを決めてその道の初学者として学んでいる最中です。

このIVRという分野はおそらく多くの皆さんがイメージが付きにくい分野かと思いますが。実際自分自身も救急科として研修を行っていく中で知っていた分野でして、IVRというのは「画像下（X線やCT、超音波）で行うカテーテルや針などを用いた治療」のことです。その適応は幅広く全身に及んでいて、当院で行われている治療というとシャント閉塞に対する血管拡張術などの血管の詰まり、狭窄をとる治療や腹部大動脈瘤に対するステント内挿術、動脈瘤に対する塞栓術、CT・超音波下での生検、静脈瘤に対するレー

ザー焼却術などが挙げられます。これらの治療の勉強をさせていただきつつ、救急科としても日々の当直業務や救急外来業務などもやっております。自分自身は「相談しやすい、コミュニケーションの取りやすい」医者を心掛けていこうと思っていますので、患者さんや普段の診療で気になる点や相談したい点などあれば気軽に相談やご指摘いただければと思います。





薬と飲み物の飲み合わせについて

薬剤センター 副主任 平野 貴法

皆様は薬の飲み合わせと聞いて何を思い浮かべますか。実は薬の飲み合わせは薬と薬だけでなく飲み物でも起こる可能性があります。今回は「薬と飲み物の飲み合わせ」についていくつかご紹介します。

①柑橘系のジュース・高血圧の薬や脂質異常症の薬などではグレープフルーツジュースで服用することにより、薬の分解が遅れ、結果的に作用が強くなってしまふ可能性があります。このような作用は10〜72時間ほど続きます。そのため、薬を服用中は避けることが望ましいとされています。また、同じ柑橘類でも、金柑、はっさく、ぶんたんなどは、グレープフルーツと同じく薬の作用を強くしてしまふいます。一方でみかん、甘夏、デコポン、レモン、カボスなどは影響がほとんどないといわれています。

②牛乳・牛乳にはカルシウムが多く含まれています。一部の薬はカルシウムと反応して効果が弱くなってしまうことがあります。薬を服用する前後2時間以上間隔を空ければ基本的には問題ありませんが、薬の分解速度には個人差がありますので薬を

服用中は避けることが望ましいといわれています。

③お酒類・薬は肝臓で分解されるもしくは腎臓から排泄されます。アルコールは肝臓で分解されるため、肝臓で分解される薬と一緒に摂取すると肝臓に過度な負担がかかり、薬の分解が遅れてしまうことがあります。その結果、薬の作用が強くなってしまふ可能性があります。

④ミネラルウォーター・一般に硬水と呼ばれる水が薬と飲み合わせが悪いと言われています。硬水は多くのミネラル（マグネシウムやカルシウムなど）を含んでおり、これらが一部の薬と反応して効果を弱めてしまふ可能性があります。日本の水道水は軟水が一般的のため、水道水で薬を飲む際は大きな問題はありませんが、お水だからといって大丈夫とは限らないというのがポイントになります。

以上簡単ではありますが、皆様のお役に少しでも立てればと思います。今回のことや、それ以外で疑問や質問がある場合はお気軽に薬剤センター窓口までお越しください。

春秋園だより

今号では、ユニットフロアにて行った2つの行事を紹介したいと思っています。

まずは、毎年恒例の夏祭りです。「練り歩き」を中心に、ヨーヨー釣り、スパーボールすくい、金魚すくい、射的、あて、くじ引きを行いました。

スタッフも浴衣、甚平、法被を着用し、普段と一味違う雰囲気にご利用者様も喜んで下さいました。「誰だかわからなかったよ」「やっぱり浴衣は綺麗だね」と、お褒めの言葉をいただきました。「キレイなのは浴衣ですか?」と冗談を言う「職員さんだよ」とお返事をいただき、皆さんの笑顔を見ることができました。

ヨーヨー釣りはなかなか上手くすくえず、悪戦苦闘していましたが、真剣な姿がみられました。



射的は鉄砲に玉を入れ、的に目掛けて打ちます。狙いを定め、的に集中する利用者の姿が印象的でした。くじ引きはハズレなしの景品を用意しました。

短い時間でしたが、夏の風情を味わって頂けたかと思っています。

続いて敬老会です。ユニットフロアには百寿（紀寿）・米寿・傘寿のご利用者様がいらつしやいました。紀寿（きじゅ）の由来は、「紀」という字には、一世紀100年という意味があり、100歳を迎えた事を「紀寿」と呼んでお祝いするそうです。百寿（ひゃくじゅ）の由来は「百」という漢字をそのまま用いて「100歳」をお祝いする言葉だそうです。ユニットフロアには100歳以上の方が2名いらつしやいます。お祝い対象のご利用者様には色紙を作成し、他のご利用者のメッセーじカードを贈呈させていただきました。

朝夕に秋を感じるようになり、感染症も流行ってくる季節になってきましたので、感染予防に努め、体調管理を万全に対応してまいります。

（ユニットスタッフ一同）



部署紹介

C5階病棟

C5階病棟 師長

縮 夏美

C5階病棟は、地域包括ケア病棟として病床数43床を設けています。急性期治療を経過し、症状が安定した患者さんに対して、安心して退院していただけるように在宅支援に向けた医療や支援を目的とした病棟です。

特徴①集団リハビリの実施

集団リハビリは、リハビリスタッフが中心となり、看護師、看護助手も時折参加しています。体操、歌、季節の行事などアクティビティを通して、身体機能の維持・改善だけでなく心理的サポートや社会参加のきっかけとなるように取り組んでいます。

特徴②多職種連携の充実

当病棟は、医師、看護師、の他にリハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカー等、多職種で協力し患者さんの退院支援、退院後のケアに



ついて支援しています。

24名の看護師・看護助手に加え、外国人技能実習生3名(ベトナム・インド)が看護助手として働いています。実習生の皆さんは、祖国を離れ言葉や文化、環境の違う日本でそれぞれが大きな目標をもって頑張っています。一緒に働く仲間として、大きな影響を与えてくれて、患者さんとも一生懸命コミュニケーションをとり笑顔で取り組んでいます。

このように、大きな特徴が2つある病棟になっています。

笑顔あふれる病棟づくりを目指して看護していきたいと思っています。

DMカフェ

糖尿病・代謝内科

部長 河邊 聡子



味覚の秋となりました。過酷な夏の暑さで胃腸も弱っている時期です。食べすぎや食あたりに注意しましょう。今回は肥満とやせについてです。「肥満は食べすぎ、やせは食べ物不足」と思っています。せんか? 極端な肥満や体重減少は「病氣」であり、見逃すと危険です。BMI(体重÷身長(m)÷身長(m))>35は病的肥満です。身長160cmで体重90kg、身長170cmで体重100kgの方は大変危険な状態であり肥満治療の適応となります。当院は肥満症治療専門病院です。次は「やせ」についてです。極端なダイエットは筋力低下、健康障害につながります。また、ダイエット以外の体重減少は癌、感染症、消化器・呼吸器疾患、ホルモン異常、インスリン分泌低下など危険な病気の可能性があります。食事がとれない、食べてもやせてしまう方は主治医に相談し全身の検査や治療の見直しをしましょう。

Dr趣味リレー

研修医 村田 明莉

散歩は、心身のリフレッシュにぴったりの趣味です。日常の忙しさから少し離れて、自然の中でゆっくりと歩く時間は、心を落ち着かせ、リラクセスさせてくれます。季節ごとに移り変わる景色や、道端に咲く小さな花、木々のざわめきに耳を傾けることで、日常では気づけない発見がたくさんあります。また、歩くことで適度な運動にもなり、体力の維持や気分転換にも最適です。最近では歩数を記録するスマートウォッチやアプリもあり、距離や歩数を目に見える形で確認できるので、モチベーションにもつながります。

さらに、散歩は考えごとを整理したり、新しいアイデアを思いつく時間にもなります。忙しい日々の中で、少し足を伸ばして自然に触れる時間を作ることで、心も体もリフレッシュできるでしょう。

入職者

9月1日付

研修医 川淵 太郎

9月より5ヵ月間お世話になります。短い期間にはなりますが誠心誠意努力していく所存です。何卒よろしくお願いいたします。

人事部

事務 榎澤 奈津美

私の強みであるコツコツと努力し続ける点を活かして仕事に取り組んでいきます。

看護部

看護助手 中岡 奈津美

患者さんの気持ちに寄り添い、安心して過ごしていただけるケアを心がけたいと思います。

春秋園

ケアサービス部

看護師 北澤 亜矢子

病院から転籍となりました。今までの経験を活かし、より良い看護が提供出来るように努めて参ります。

病院内の 和食レストラン

テラスダイニング

レストラン事業部 主任

河村 裕太

創業20年以上の歴史を持つ和食レストラン『テラス・ダイニング』

病院内とは思えないほど落ち着いた空間で心安らぐひとときをお過ごしいただけます。

当店の自慢は豊洲市場から直送される新鮮な魚介を使用した海鮮メニューです。

素材を活かした繊細な技術で旬の美味しさをご用意いたします。

窓から光が差し込む解放的な空間で海鮮和食をゆっくりとお楽しみください。

編集だより

秋を感じるシーンが増えてきましたね。早いものでもう10月ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

これから徐々に気温が下がってきます。体調には気を付けて、これからの季節も楽しんでいきましょう。(Y・A)

また、院内C棟売店のテラス・ショップ&カフェでも特製弁当を販売しておりますので是非ご利用ください。

皆様のお越しをスタッフ一同、心よりお待ちしております。

テラスダイニング

営業時間 10:30 ~ 15:00

(ラストオーダー 14:30)

店休日：日、祝日、年末年始



お刺身定食

病院理念

我々は医療全般は基より、3つの柱「救急医療」「予防医療」「高齢者医療」を通じて地域住民の皆様に最善の医療・福祉を提供すると共に、職員一同自己研鑽に励みます。

病院概要

病床数 489床 (一般391床 医療療養型55床 地域包括ケア43床)

施設

敷地 59,449.60㎡ 駐車場 1151台



診療科目

【一般外来】

内科、消化器内科、循環器内科、心臓血管外科、血液内科、腎臓内科、脳神経内科、呼吸器内科、糖尿病・代謝内科、リウマチ・膠原病内科、小児科、眼科、泌尿器科、皮膚科、整形外科、脳神経外科、形成外科、救急科、外科、乳腺外科、消化器外科、耳鼻咽喉科、産婦人科、歯科口腔外科、甲状腺・内分泌外科、血管内治療科

【専門外来】

循環器疾患専門外来、ペースメーカー専門外来、不整脈外来、肝疾患専門外来、糖尿病専門外来、甲状腺専門外来、血液専門外来、ストーマ(人工肛門・人工膀胱)専門外来、リウマチ専門外来、関節専門外来(股・膝)、脊椎外来・足部外来、スポーツ外来、乳腺専門外来、小児神経外来、発達障害(自閉症・学習障害等)専門外来、小児心理外来、小児科免疫外来、小児科循環器外来、口腔機能外来、皮膚科レーザー外来、内視鏡科、心臓血管外科、そけいヘルニア外来、下肢静脈瘤外来、再建外来、女性泌尿器科外来

日本医療機能評価機構認定病院
医療法人社団 常仁会

救急24時間

牛久愛和総合病院

〒300-1296 茨城県牛久市猪子町896番地
Tel 029-873-3111 Fax 029-874-1031
ホームページ <http://www.joinkai.com>

【関連施設】

総合健診センター Tel 029-873-4334
健康増進施設 スポーツリラックス Tel 029-874-8791
人工透析センター
読影センター
地域リハ・ステーション
介護老人保健施設 春秋園 Tel 029-870-3100
ひたち野ステーションクリニック Tel 029-896-6200
特別養護老人ホーム グランヴィラ牛久 Tel 029-817-5111

